

# 図書館だより



京都市立高野中学校  
図書館

令和4年 5月号

## 新緑のなか、本を読みませんか？

5月におすすめする本は「0号室」さんの「がんばる理由が君ならいい」です。

この本は大切な人を大切にする方法がかかれています。

普段一緒に過ごしている家族や友達だからこそ、

いつも大切にし続づけられてられないかもしれません。

この本はそんな自分の行動と身の回りの人の大切さに気付ける一冊です。

図書委員長



## 5月は 本屋大賞 特集！！

先月、2022年の「本屋大賞」が発表されました！

この賞は全国の書店員が昨年一年間に出版された本の中から「いちばん売りたい本」を選ぶ賞です。

今月の新着本は、本屋大賞1位から10位の小説がずら～り

勢ぞろい！ついでに歴代の本屋大賞受賞小説も展示しています！

どの小説も超おすすめの一級品です！まだまだいろんなことが制限されている現実世界。そんな今だからこそ、物語の世界にどっぷり浸って、現実逃避してみるのもいいかもしれません。

GW明けのこの時期は心も身体も疲れがち…。静かな図書館で本を読んでほっと一息。みなさんのご利用をお待ちしています！



## 同志少女よ、敵を撃て

逢坂 冬馬/著

堂々第一位作品！独ソ戦が激化する1942年を舞台に、「死ぬか、それとも戦うか」究極の選択をした少女が戦うべき「真の敵」とは？今起こっている戦争ともリンクしています。ミステリーアクション小説としても話題の一冊。



## 赤と青とエスキース

青山美智子/著

「お探しばかり図書室まで」の著者が今年も連作短編集小説で受賞。メルボルンの若手画家が描いた1枚の下絵（エスキース）。日本に渡って30年、その絵画は「ふたり」の間に奇跡を紡いでいく。仕掛けに満ちた二度読み必須の小説。



## スモールワールズ

一穂ミチ/著

家族という小さな世界は、私たちの身近なもの。ちょっとした会話や気持ちのすれ違い、どうしても言えずに飲み込んでしまった思い、ささいなエピソードが詰まった6つのストーリーがどれもキュウっと心に来る感じの連作短編集。



## 正欲

朝井リユウ/著

あつてはならない感情なんて、この世にはない。それはつまり、いてはいけない人間なんて、この世にはないということだ。ある人物の事故死をきっかけに多様な人の人生が重なり合って…。「多様性を尊重する」時代に生きる私たちに揺さぶりがけてくる小説。



## 六人の嘘つきな大学生

浅倉秋成/著

「犯人」が死んだ時、すべての動機が明かされる—新時代の青春ミステリー。就活大学生たちの究極の心理戦。ミステリー好きな人はぜひ読んでほしい今注目のミステリー小説。早速映画化も決定の話題作



## 夜が明ける

西加奈子/著

思春期から33歳になるまでの男同士の友情と成長、そして変わりゆく日々を生きる奇跡。まだ光は見えない。それでも僕らは夜明けを求めて歩き出す。



## 残月記

小田雅久仁/著

近未来の日本。悪名高き独裁政治下。世を震撼させる感染症「月昂」に冒された男の宿命とその傍らでひっそり生きる女の途な愛。「月」をモチーフにしたダークな三篇。日常が一変する恐怖。それでも何かを守ろうとする勇気と行動力が描かれた作品。



## 硝子の塔の殺人

知念実希人/著

雪深い森で、ひときわ輝くガラスの塔。地上11階、地下1階、唯一無二の美しい巨大な塔。ミステリーを愛する大富豪の呼びかけで刑事、霊能力者、小説家など癖のあるゲストが招かれ、次々と惨劇が起こり…。「館」もののミステリーが好きな人におすすめ。



## 黒牢城

米澤穂信/著

本能寺の変の4年前、織田信長に背き、有岡城に籠城した荒木村重は、城内で起こる難事件に翻弄される。解決のため、幽閉していた織田方の黒田官兵衛に謎解きを求めたが、その結末は…。戦国×ミステリーで直木賞を受賞した本作。歴史好きもミステリー好きもぜひ読んで見て下さい。



## 星を掬う

町田そのこ/著

小学1年の夏休み、私は母と二人で旅をした。その後私は母に捨てられた。最後まで読むとこのタイトルの星を掬う(すくう)の意味が分かるかも…。